

落ち葉探偵 2022 上賀茂神社

区 分 講師派遣
日 時 10 月 22 日（土）午前 10 時～12 時
場 所 上賀茂神社内
天 候 曇りのち晴れ
主催者 財団法人稲盛財団・落ち葉探偵 共催
参加者 20 組の親子 約 40 人
稲盛財団 2 人 落ち葉探偵 2 人 Noi-Kyoto 3 人

前回 2020 年から 2 年ぶりの開催でした。当初齋藤さんが出席の予定でしたが、急遽白石さんに交代いただきました。福井も下見に参加しておらず、波乱の幕開けとなりました。

こどもたちに、自然の循環を体感してもらい、生活の中で自分自身がその循環の中にいることを感じてもらうという狙いで、前半は「はっぱや木と仲良くなる」後半は「ツチモン探し～木と土のつながりを知る」をテーマに観察をしました。

今回参加の親子さんは自然や動植物が好きなご家族ばかりのようで、スタート前から、「これなんですか？」とケムシを持ってくる子がいて、清水さんに「何の幼虫かわからないけど、刺されたり、かぶれる可能性が高いから触らないように逃がして」と言われ、しぶしぶ手放す様子に、好奇心旺盛で、昆虫も嫌がらない子たち・・・に期待が高まります。



まず、グループ分けののち、「いろいろな色の落ち葉を探す～いろいろな色に変化（紅葉）した葉やどんぐり、その他いろいろ」をミッションに活動を開始しました。

鳥居近くのシラカシ、アラカシ、松の木肌を触ったり、松ぼっくりを拾ったり、落ち葉を集めたりとにぎやかになってきました。

松葉には二葉、三葉、五葉などがあり、しっかりとくっつくと 1 本になることを説明したり、1 年でドングリとなり、落ちるものと、2 年かかるものがあるなど説明をしたりしていましたが、大きなキノコ（何かは不明）を見つけたりと大騒ぎでした。

落ち葉はサクラが中心ですが、黄色から赤とグラデーションが美しい落ち葉をみんなで競って集めていました。「こんな大きな葉っぱ！」とキリの葉を拾ってきた子が「これ、緑だけど大丈夫？」「緑も OK」と和やかな雰囲気でした。



ここで、一旦集合し、集めたはっぱを長い紙の上に並べていきました。緑から黄色へ、赤へ、茶色へときれいなグラデーションの葉っぱの絵巻物が完成しました。

なぜ、葉っぱは色が変わるのか、清水さんからそのヒミツをコッソリ（ではないが）教えてもらいました。紙芝居タッチで、クロロフィルが減って、もともとあるカロチノイドが目立つと黄色に、アントシアニンが多く作られると赤色になる現象と、とても解りやすく、科学的な説明でした。

こどもたちは、紙芝居に興味はあるものの、カタカナのややこしい言葉には興味を持てないようでしたが、一緒に保護者の方たちは非常に興味を持たれたようで、「紅葉が始まったら、じっくり観察してみよう。」「アントシアニン・・・ブルーベリーのやつ」と多くの方が話しておられるのが印象的でした。

その後、神社の奥に入っていました、途中、お宮参りの記念写真撮影をしているご家族があり、足止めを食ってしまいましたが、大きなイチイガシのどんぐり拾いやサルノコシカケ風キノコなどお楽しみがいっぱいでした。

神社の奥では、境内の落ち葉をコンポストでたい肥化し、フタバアオイを育てておられる中田さんから、落ち葉の循環について説明していただきました。

最後に落ち葉をめくって土中の生物「ツチモン」探しが始まりました。ミミズやその他名前がよくわからない「ツチモン」たちの登場に名前を探しながら楽しんでいました。落ち葉はたくさん集められており、ふかふかな中では、多くの「ツチモン」が見つかりました。

12時を過ぎて慌てて解散となりましたが、子どもたちも親御さんもそれぞれ「楽しかった」と口々にお礼をいただき、充実した半日でした。

秋色に染まる落ち葉はグラデーション並べて作る錦の絵巻
福井

